

## 概要報告

### ③ 「豊かな仕事と暮らしを育む、SDGs時代の森人づくり

～教育・健康・暮らしを支える「Green Career」を問う～

朝廣 和夫（九州大学芸術工学研究院 環境デザイン部門 准教授）



私の専門は緑地保全で、緑一般を取り扱っています。出身は九州芸術工科大学で、九大と統合になっているのですが、建築、地域計画、都市計画そしてランドスケープという視点で、森づくりだけではなくて、もう少し幅広くご紹介させていただきたいと思います。

## 今日の話

### ① 平時の里地・里山での都市・農村交流

Keyword: 多面的機能、近代化の課題  
故重松敏則教授の里山保全活動とボランティア、

### ② 里地・里山ボランティアから 農地復旧ボランティアへ

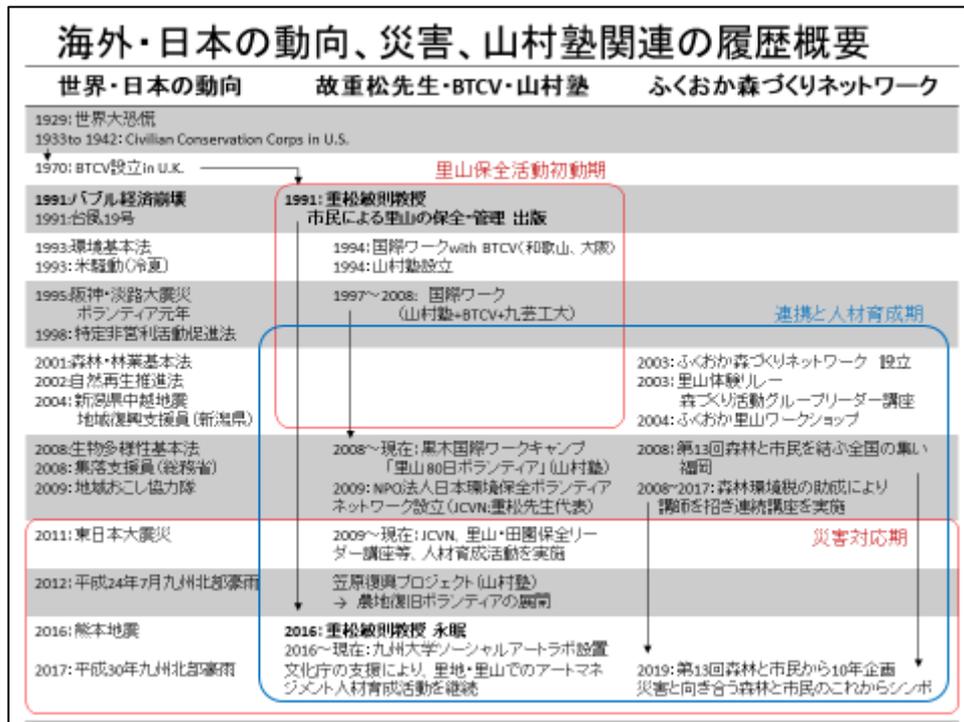
Keyword: 平成24年7月九州北部豪雨以降の農地 復旧ボランティア  
の展開

### ③ 緑のボラからグリーン・キャリアへ 風景づくり社会の課題解決を通じて

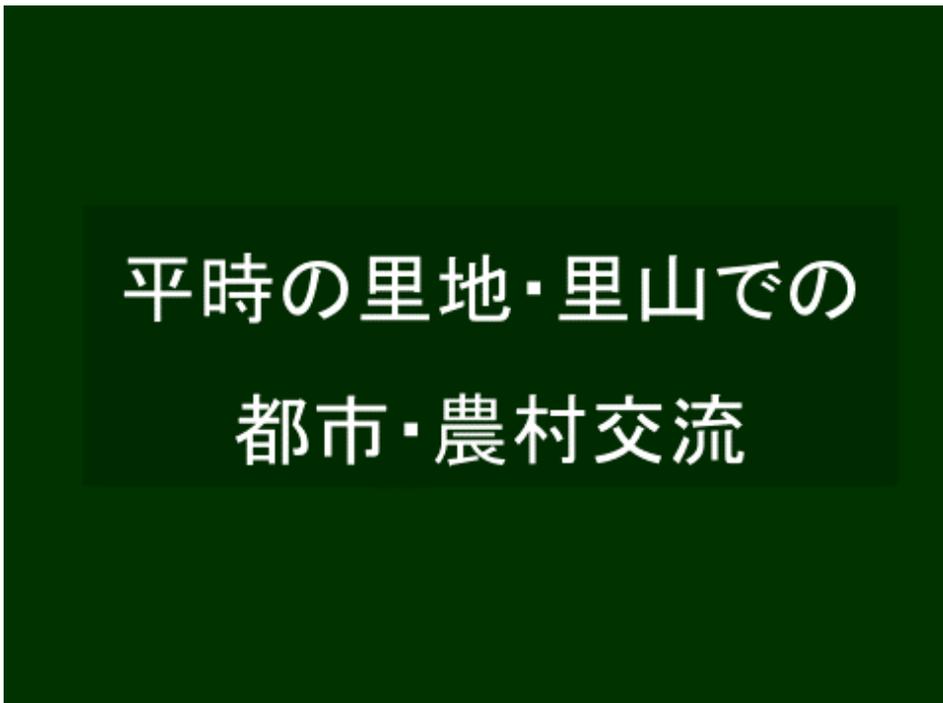
Keyword: 英国の風景づくり、米国の緑のパブリックサービス  
Green Careerで開拓するフロンティア

もう亡くなられたのですが、重松敏則先生とって、里山の保全をやっておられた先生と一緒に、私は九州で取組を続けてきました。今日は、里山の保全のお話し、そして、九州はこの7年ぐらい熊本地震を含めて災害

続きであり、里山ボランティアが災害復旧支援に展開していった事例、そしてそのような経験から、まだ日本にはない言葉ですが、グリーンキャリア、という視点をお話しさせていただけたらと思います。



ここに、細かい年表のようなものを付けています。重松先生が、里山ボランティア、市民による里山保全管理という本を出版された1991年（平成3年）は、ちょうどバブル経済が崩壊し、そして台風19号が九州北部を襲った時代でした。それから里山保全活動がどんどん展開していったように思います。また、2000年になってからは、様々な連携で人材の育成であるとか、団体間の連携など、福岡でも私たちはそのような活動を展開しています。2011年東日本大震災のころから、災害対応期と書いてありますが、最近は里山ボランティアをする時間がなく、被災地支援ばかりです。やはりそういう時代に突入したのではないのかなと思っています。



そこで、平時の里地、里山保全と都市農村交流という点でお話しします。

## 里地・里山の多面的な役割

### ① 景観の形成



田畑、雑木林等が構成され、四季折々の景観を形成します。

### ② 生物多様性



伝統的な水田には、メダカやゲンゴロウがたくさん住んでいました。

### ③ 自然とのふれあいの場



普段体験できない自然や農林体験など、環境学習の場となります。

### ④ 水・土壌・大気環境の保全



健全な森は土壌を育み、水を涵養、酸素を出し、二酸化炭素を吸収します。

### ⑤ 生活文化の伝承



地域文化、食文化を支え、祭事の伝承が行われます。

### ⑥ 農林産物の生産



農地では米や野菜、森では、木材やバイオマスが生産されます。

里地、里山の多面的な機能という点では、森林においても言われていますが、景観、生物多様性、自然とのふれあい、そして大気の浄化であるとか水源涵養、生活文化の伝承、農林産物の生産、と多くの機能があります。このチェーンソーで薪を作っているのは私なのですが、こういう中山間地域や農山村地域というのは、非常に様々な役割があるところです。

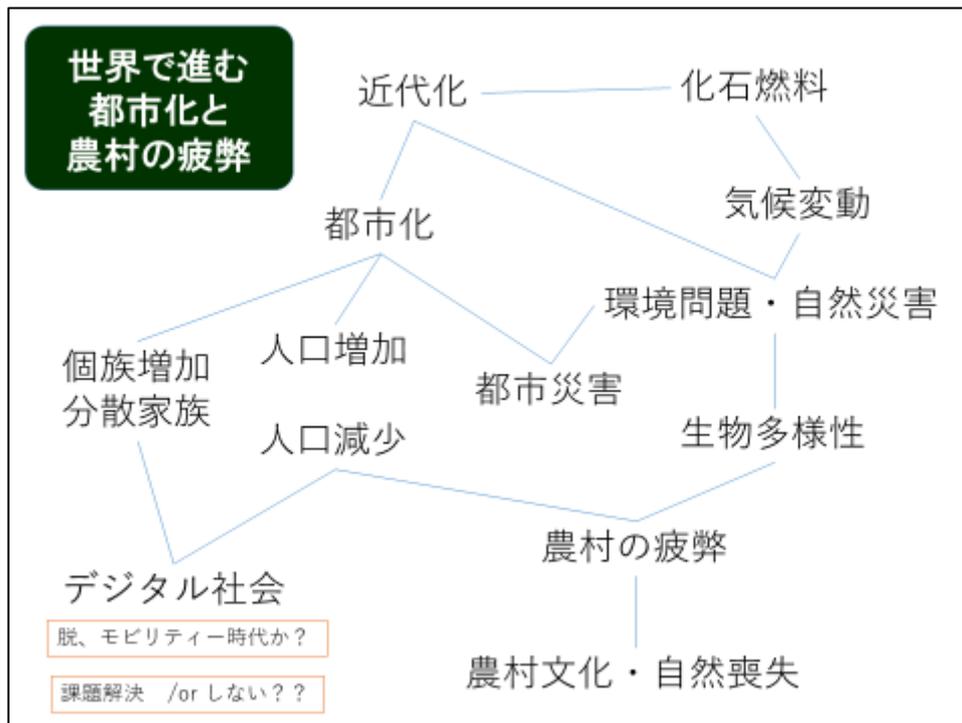



人の暮らし・生業の

都市化・近代化

スライド：重松 敏則

ところが、人口減少と言われながら今でも都市化が進んでいます。一方で、農山村には、あと10年もすれば誰も住まないよと、先週も福岡県の朝倉で農家に強く言われました。人の暮らしが都市に集中している中で、国土のほとんどを占める中山間地を、私たちはどうマネジメントしていくのか、人は何をすべきなのか、そういうところが課題になっていると思います。



それは、近代化と都市化に大きな原因があるわけで、そういったことが、人口減少と疲弊、文化の質と自然の喪失というものにつながっていると思います。一方で、デジタル社会というものが到来しているところです。

### 里山保全と故重松敏則教授の視点

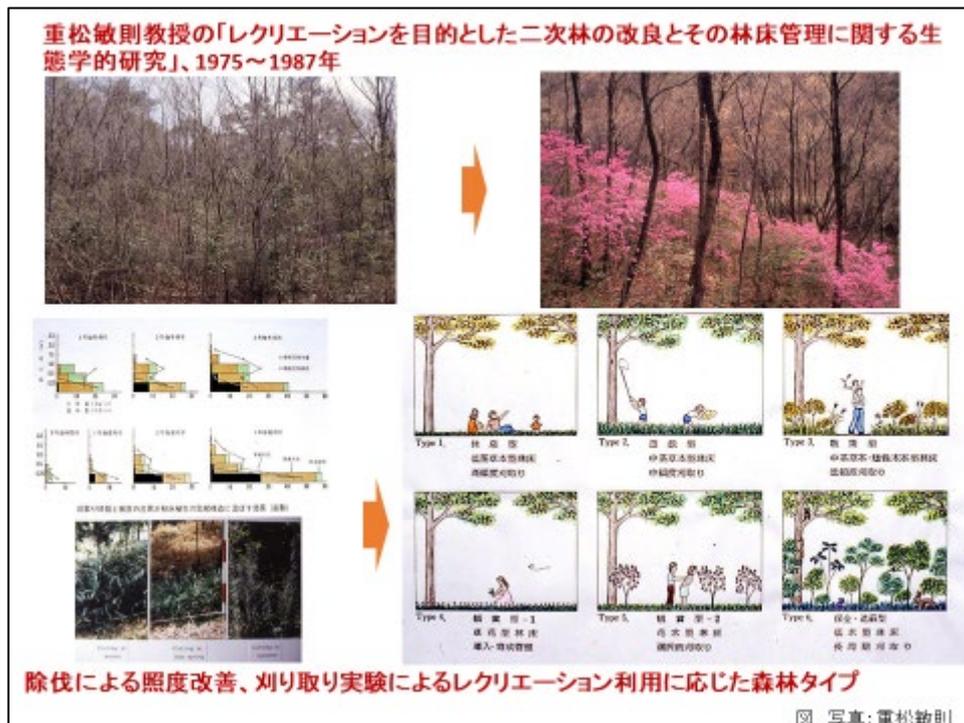
**重松敏則**  
九州大学名誉教授  
Prof. Toshinori Shigemitsu

- 1975 大塚南立大学農学部造園学研究室に助手
- 1987博士論文「レクリエーションを目的とした二次林の改良とその林床管理に関する生態学的研究」農学博士
- 1989日本造園学会論文賞
- 1990 Wye College of London University 客員研究
- 1994九州芸術工科大学(現:九州大学芸術工学部 環境設計学科)教授
- 2009 同退職。NPO法人日本環境保全ボランティアネットワーク理事長



 1991年 信山社ワイアック	 1993年 築地書館	 1999年 日本財団 原著: BTCV
 1999年 (社)全国林業改良普及協会	 2002年 朝倉書店	 2010年 築地書館

重松先生の本を少しご紹介しますと、里山は市民の参加によって保全すべきではないかということを提唱されています。



左の写真は、大阪の鬱蒼としたコナラの雑木林です。これを間伐することで太陽の光が入り、花が咲いています。間伐や採草の回数を変えることで多様な森林空間をつくり得る、様々なレクリエーションの場を提供できる、そういった研究をされていた先生でした。日頃は都市で働き、疲れているサラリーマンのお父さんたち、塾に通っている子どもたちが、一緒に里山の管理をすると楽しいのではないかと提唱されています。



先生が大阪府立大から九州芸術工科大学に教授として来られてから、福岡でイギリスのBTCVというボランティア団体と一緒に崩壊した棚田の石積みや、スギ・ヒノキ林の枝打ちや間伐を、市民参加でのボランティア活動として展開してきました。これを開始するときも、国土緑化推進機構の理事の方に来ていただいて、助成をいただきながら続けてきたものでした。先生のポイントは、こういった市民参加による人材育成、それが景観

の多様性を育み、種の多様性、そして生産性を育み、それが社会の安定につながる、それは、都市・農村問題を解決する一つの解であると、確信を持って取組をされてきていました。



少し話が変わりまして、先ほどお話したBTCVという団体についてお話しします。イギリスではナショナルトラストが非常に有名で、数々のNPOが土地を買って保全するのに対して、BTCVは、人、リーダーを育成して、土地は買わずに自然環境の保全を行う、人々の保全活動によるよりよい環境づくり、人が大切であるというポリシーで展開している団体です。

### BTCV,TCVの概歴

<p>1959: 国内青年協力隊として開始 Conservation Corps. 42名のボラ。植生保全</p>	<p>1964: 活動に、田園地域での教育、アメニティ活動を展開</p>	
	<p>1968: 初めて、ボランティアとスタッフへのトレーニングコースを実施 継続的な活動展開を目指して</p> <p>1969: 年間活動が600作業、ボランティア6000名の規模に</p>	
<p>1970: British Trust for Conservation Volunteer (BTCV)に改称 1974: 地域団体所属スキームを開始、57団体、3000名に</p>		
<p>2008: 770地域、2万人のボランティア、70のグリーンジム</p> <p>2011: BTCVはThe Conservation Volunteer (TCV)に改称 2012: DEFRA支援のもと、15万本/3年間の植樹を実施 2018: 1400か所、10900名の登録ボラ、92400名との共同 2019: 設立60周年</p>		<p>244名の雇用スタッフ (2017-18) ●収入: 約13億円 (135円/£換算)</p>

BTCV が開始されたのは1959年で、コンサベーションコアとして展開し、2011年にはTCVと改称しています。イギリスのDEFRAの支援では、3年間で15万本の植樹をしており、2018年には1,400箇所、10,900

名の登録ボランティア、92,400名との協働活動を行っています。規模的には244名の雇用スタッフ、昨年度の収入は約13億円で、この10年間を見ても、若干活動が縮小しているのですが、取組はいまでも持続されています。彼らが扱うものは、森の間伐や、生け垣の管理ですが、着目しているポイントは、コミュニティの改善、例えば緑空間を管理して地域の収益にしていこうであるとか、地域のネットワークを作っていこうということです。また環境については、実践的な生け垣の保全、雑木林の管理と環境の保全、そしてトレーニングを行い、技術を伝承して、様々なプラクティカルな伝統的な景観保全を実現していくというものです。

### The Trust for Conservation Volunteer のターゲット

OUR OUTCOMES AND HOW WE DELIVER THEM:

<b>コミュニティ</b>	 <p><b>COMMUNITIES</b> Communities are stronger, working together to improve the places where people live and tackle the issues that matter to them.</p>	 <p><b>ENVIRONMENT</b> Green spaces are created, protected and improved for nature and for people.</p>	<b>環境</b>
<b>学習 技術</b>	 <p><b>LEARNING &amp; SKILLS</b> People improve their confidence, skills and prospects, through learning inspired by the outdoors.</p>	 <p><b>HEALTH &amp; WELLBEING</b> People improve their physical and mental health and wellbeing, by being outdoors, active and connected with others.</p>	<b>健康 福祉</b>

地域住民プログラム  
RBSチームチャレンジ  
緑空間を地域収益へ  
地域の森づくり  
地域ネットワークづくり

人々の自身、技術  
可能性を野外活動で  
向上  
様々な認証、非認証  
コースを提供  
実践技術、リーダーシップ  
安全管理、リクルート  
評価、地域連携など  
環境教育、調査も含む

実践的保全活動の展開  
自然環境の保全  
森林、生垣、草地  
水路、湿地の保全  
植林

グリーンジム  
活動を通じた  
体と心の健康

そしてこの十数年、彼らが力を入れているのが、健康・福祉、グリーンジム、森で活動することで健康を改善していこうということ、様々な自治体、NPO 団体と連動しながら展開しています。

### BTCV(現 TCV)のリーダー育成と事業展開

BTCV (British Trust for Conservation Volunteer: 英国自然環境保全トラスト)  
→ 現在は、TCV(Trust for Conservation Volunteer)

2019年のトレーニングプログラムメニュー (76活動を各地で展開)

Big Green Weekend	Green Gym	Practical conservation activity
週末活動	グリーンジム	実践的保全活動
I Dig Trees: OVO Tree Planting	Health walk	Children's activity
植林	健康ウォーク	子供の活動
Training or workshop	Food growing activity	Community event or activity
トレーニング	菜園・果樹園活動	地域イベント活動
Wildlife surveying activity		
自然環境調査活動		



▶ トレーニング

国際リーダー

合宿リーダー

日帰りリーダー

彼らがこれを実践できるポイントは、リーダーのトレーニングプログラムがしっかりしているということです。これについて調べたところ、今年76のトレーニングプログラムが組まれていて、週末活動、グリーンジム、実践的保全活動、植林、健康ウォーク、子どもの活動トレーニング、菜園・果樹園活動、地域イベント、自然環境調査活動、こういうことができる人材をトレーニングしながら各地のプロジェクトを展開しています。

### 環境保全活動 リーダー研修 CVI 2019 Conservation Volunteer Institute

**JCVN**  
NPO法人  
日本環境保全ボランティアネットワーク

環境保全活動（清掃活動、樹木伐採、植樹活動）や自然ボランティア活動など多岐にわたる活動で、参加するボランティアはコミュニケーションしながら「安全で楽しい活動」を展開する経験豊富なリーダーの存在が大切です。

仲間をまとめる、作業を進める、安全を管理する、課題を解決する、異国の環境保全ボランティアのトレーニングプログラムをベースに、12ヶ月の活動・実践してきた経験です。

「共通コース 前期（全4回）」として、現場リーダーが身につけておきたいさまざまな引き出し（スキル）も、実際に活動を通じて学べます。関わる人を大切に、よい活動の場を共に広げていきましょう。

### JCVNによる環境保全活動リーダー研修 (CVI)

海外におけるグループ活動をマネジメントできる人材の育成を目的とし、希望や経験に応じ、インターンシップ研修を実施します。今回は2年以上経験された方に受講機会を優先した研修を案内し、今後の受講機会に活用を促します。

- 1 共通コース (前期)
- 2 共通コース (後期)
- 3 専門コース
- 4 インターンシップ研修

1 共通コース (前期)：リーダーの役割、コミュニケーション、安全管理、リスクアセスメント (計4回)

2 共通コース (後期)：活動計画、チームビルディング、目標設定、地域の保全活動 (計4回) (1日課後、15時間) / 2019年度限定 (計) 12名

3 専門コース：森林管理、コンポスト製肥、ファンシレーションなど現場でのリーダーを必要とし、JCVN事務局にて実施

4 インターンシップ研修：JCVN事務局 (環境生活研究所、山形県、宮城県) 事務局、1ヶ月間日本滞在、九州大学大学院工学部にて研修実施

**◆共通コース 前期 全4回 受講生募集!**

<p><b>第1回 6/20 (木)</b> 18:30 - 21:00 ※定員が10名を超えれば有休授業</p> <p><b>リーダーの役割</b> なぜボランティアが必要か、モチベーション、リーダーの役割、リーダーシップ</p>	<p><b>第2回 7/11 (木)</b> 18:30 - 21:00 ※必ずみんなの会ルーム</p> <p><b>コミュニケーション</b> コミュニケーション、プレゼンテーション、フィードバック</p>
<p><b>第3回 8/1 (木)</b> 18:30 - 21:00 ※必ずみんなの会ルーム</p> <p><b>安全管理・概論</b> 安全管理概論、事故事例分析</p>	<p><b>第4回 8/22 (木)</b> 18:30 - 21:00</p> <p><b>リスクアセスメント</b> リスクアセスメント理論と実践</p>

**対象**：環境保全ボランティアや自然ボランティアに限りませんが、これから取り組もうとしている方、NPO事務スタッフ等

**希望者**：各回 15名  
4回連続参加できる方を優先します

**定員**：各回 15名  
4回連続参加できる方を優先します

**会場**：【第1回】 鹿児島県本郷地下2階6号会議室 (鹿児島市中央区本郷2-1-12)  
【第2~4回】 福岡県糟屋郡・ボランティア交流センター「あすみん」セミナールーム (福岡市中央区天神1-15-22 天神クラス4F)

**費用**：NPO 法人日本環境保全ボランティアネットワーク (JCVN)  
料：福岡県NPO・ボランティア交流センター「あすみん」  
福岡NPO 法人環境生活研究所、NPO 法人グリーンシティ福岡、NPO 法人アトランティック環境未来基地、特別協賛 NPO 法人山形県、九州大学大学院工学部

### 研修を担当するJCVNのトレーナー

<p><b>高賀 壮史</b> NPO 法人グリーンシティ福岡 理事 http://www.green-city.org/ 福岡市と「緑のボランティアセンター」として、様々な自然・小・中・高の緑の保全活動、緑地を中心に都市部の環境改善や自然体験活動、環境ボランティアの育成などを行う。</p>	<p><b>小森 麻太</b> 特別協賛 NPO 法人山形県 事務局長 http://www.yamagata.com/ 大崎町の山形県環境センターに、2009年4月に公民館を改装して開設。以降、地域の環境保全活動、山形県や都市部農村部交流活動の推進。</p>
<p><b>たいら 由以子</b> NPO 法人環境生活研究所 理事 http://www.jcvn-matsumoto.com/ ※福岡NPO・ボランティアセンターの理事、福岡市環境生活研究所の理事として活動。環境活動の推進や自然体験活動の企画・実施、自然体験活動を行っている。</p>	<p><b>朝岡 和夫</b> 九州大学大学院工学部教授 准教授 http://faculty.s.u-kyushu.ac.jp/~k1ak 専門は環境保全学、国土保全学ネットワークに、都市・農山村の環境保全および環境ボランティアの育成・支援を研究している。</p>

### 参加申し込みフォーム

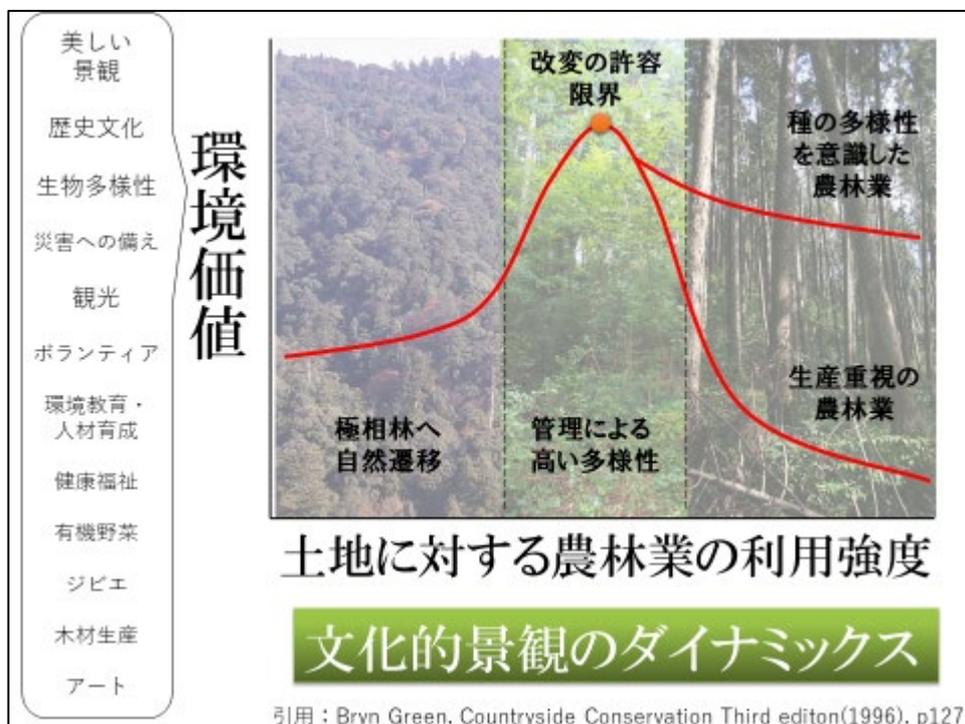
下記を記入しお申し込みください。メールまたはFAXにて事務局までお送りください。  
ホームページ: <http://www.jcvn-matsumoto.com/>、お問い合わせフォームもご利用いただけます。

**申込先** FAX: 092-215-3956 メール: [jcvn@green-city.org](mailto:jcvn@green-city.org)  
NPO 法人日本環境保全ボランティアネットワーク (CVI) 宛て (〒815-8501 福岡)

お名前  
連絡先 (メールアドレスまたは郵便番号)  
所属 (所在地)  
研修参加の理由 (30文字以内を記入してください)  
 共通1回 (計) 2回 (※ リーダーの役割)  
 共通2回 (計) 3回 (※ コミュニケーション)  
 共通3回 (計) 4回 (※ 安全管理)  
 共通4回 (計) 4回 (※ リスクアセスメント)  
 ※研修は順次お申し込みください (お申し込み順)

その他、ご希望の研修内容

私たちが、BTCV からトレーニング技術を教えて頂きながら、小さいながら今も福岡で実践しています。



イギリスの景観保全の基本的な一つの考え方、これは、ブリン・グリーン先生のスライド (教科書) からとっているものですが、いまの日本のスギ・ヒノキの人工林というのは、生産性重視の林業が一つのサイクルとして動かしている。また、森林環境税で多面的機能や種の多様性を意識したところに持っていこうとする、この2

つの流れかと思えます。それをさらに、景観、文化、生物多様性、観光、福祉と合わせ、環境価値をいかに高められるかが、目指すべきポイントだと思えます。

# 里地・里山ボランティア から 農地復旧ボランティアへ

ここで、里地・里山ボランティアから農地復旧ボランティアへということをお話します。

平成24年7月九州北部豪雨 3日間で649mm  
平成29年九州北部豪雨 1日間で約1000mm



これは平成24年の九州北部豪雨の写真ですが、最近はずごい雨が降っています。

## 従来の防災のモデル: 予防中心

巨大災害      想定以上      広域災害  
 想定外の脅威      都市災害

↑                      ↑                      ↑

$$D = f(H, E, V)$$

- D: 被害  
 H: ハザード(理学)      巨大災害に対し  
 E: 暴露量(都市計画)      リスクをゼロに  
 V: 脆弱性(土木建築構造)      することは不可能
- 脆弱性の克服

林春男, 2013.12, 災害対応マネジメントサイクルとコミュニティ・レジリエンス  コミュニティがつなぐ  
安全・安心な都市・地域の創造

7年前、農業支援ボランティアの研究を始めたとき、JST、RISTEX（国立研究開発法人 科学技術振興機構、社会技術研究開発センター）からお金をいただきました。その領域総括の林先生のスライドですが、これまでの防災モデルというのは、ハザード、暴露量そして脆弱性となって、脆弱性の克服を中心にしていました。

## 新しい防災のパラダイムの確立へ

人々の活動による時間をかけた復旧

↑

$$R = f(H, E, V, A, T)$$

予防力 + 回復力

- D: 被害      R: レジリエンス  
 H: ハザード(理学)      A: 人間活動  
 E: 暴露量(都市計画)      T: 時間  
 V: 脆弱性(土木建築構造)

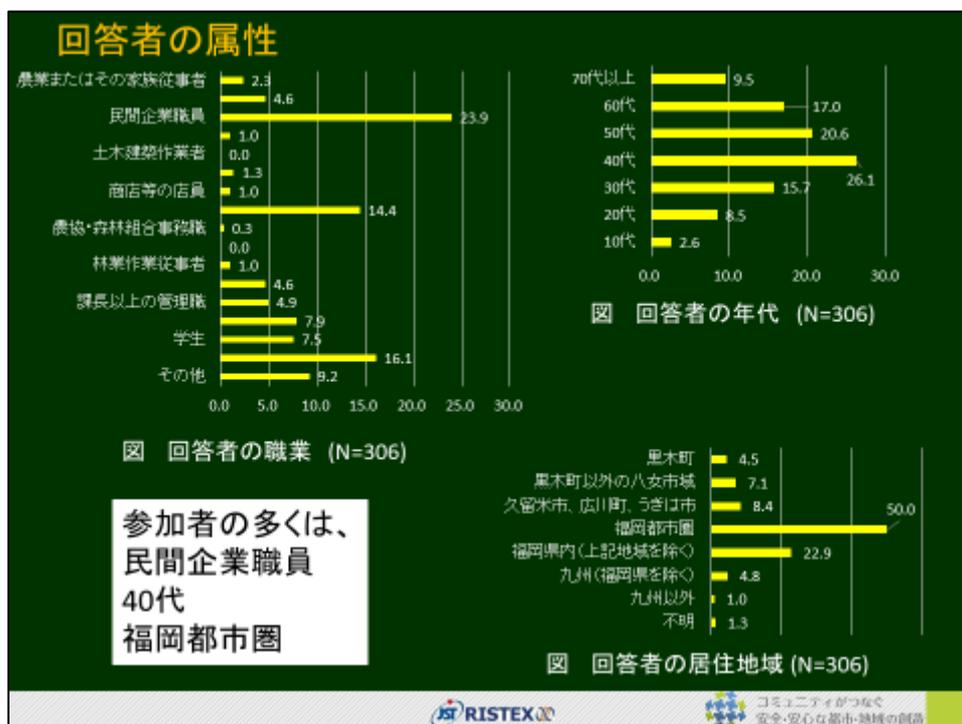
巨大災害に対し、予防力に加え社会的な防災力・回復力が必要  
 (コミュニティ・レジリエンス)

林春男, 2013.12, 災害対応マネジメントサイクルとコミュニティ・レジリエンス  コミュニティがつなぐ  
安全・安心な都市・地域の創造

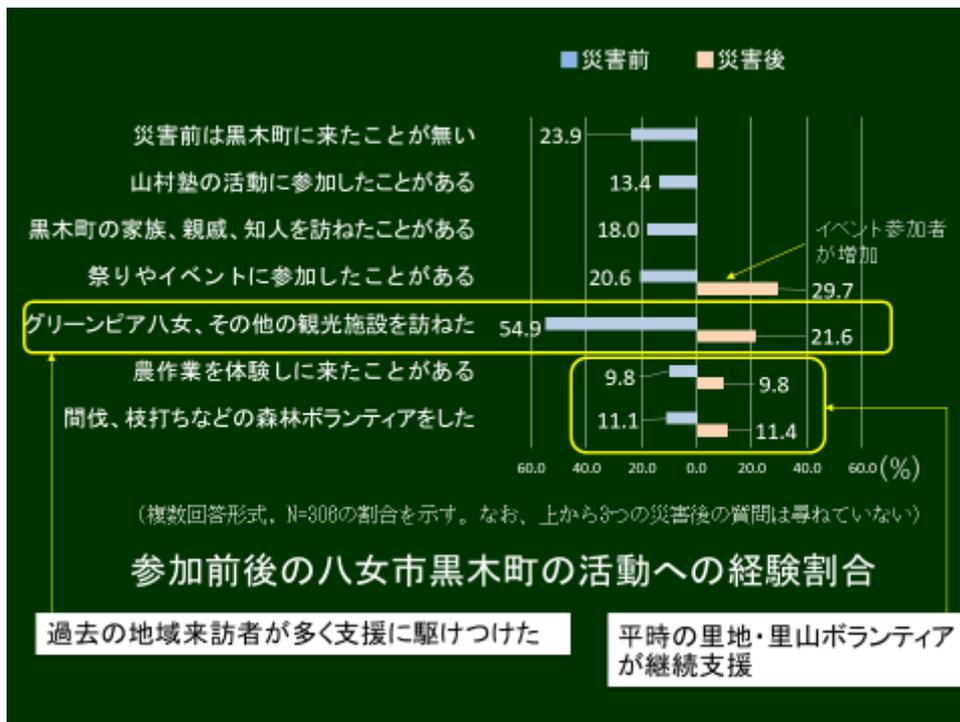
しかしながら、いま私たちには予想以上の災害が到来しています。この巨大災害に対してリスクをゼロにすることは不可能だということ、それに対してこの領域はレジリエンスモデルというものを提案しています。これまでの予防力に対して回復力、ヒューマンアクティビティと時間、人々の早い復旧活動による回復力を、いまから準備していきましょう、というパラダイムの確立を目指しています。



平成24年九州北部豪雨で被害を受けた農山村で私が対象とした事例では、地域に非常に多くの棚田があり、都市・農村交流で棚田の保全活動をしていました。そこが被害に遭ったということで、私のパートナーであるNPO山村塾が、いち早く農地・水路復旧ボランティアを開始し、続いて、星野村、浮羽市も活動を開始され、展開していきました。



ここで、アンケート調査を行ったところ、参加者の多くは40代の民間企業社員の方々でした。



また、山村塾のボランティアの54.9%は、以前その地の観光施設を訪ねたことがあるから参加したということで、災害前の観光活動がつながりを強めていたということがわかりました。また、里山ボランティアをやっていた人たちは11%でした。こうしたことから、いかに観光活動等が重要であるかということが分かります。

## 平成28年3月冊子作製、4月、熊本地震への実装開始

災害後の  
農地復旧のための  
共助支援の手引き  
Version 2016年12月改訂  
～平成28年4月に九州北部豪雨を契機として～

九州大学 農学工学部農学系 農学教育センター 農学教育センター 農学教育センター

独立行政法人 科学技術振興機構 JST  
RISTEX 社会技術研究開発センター  
Research Institute of Science and Technology for Society

2016年5月9日 西原村農業復興ボランティアセンターと意見交換

設置経緯

- サツマイモ定植の緊急課題ニーズ把握
- 社協と切り離し、2名の民間ボラに運営依頼
- SNS (Facebook) で農ボラセンのページ作成
- はじめてみると、農家、ボラから評判が良い

～ 意見交換 ～

- 5月いっぱい、2日前事前予約、毎日実施
- 現在、新体制の検討中

こういった農業支援、災害後の農地復旧の手引きを、私の方でとりまとめてオープンにして、その後の熊本地震、平成29年の九州北部豪雨後の災害復旧に展開しています。こういった平時の都市・農村交流や観光などの活動は、いざというときの施設、装備、技術、経験、地域とのつながり、こういうものの準備になるものだと思います。災害の備えとして、いかに平時からそういった活動を展開していくかということが重要なのではないかと思います。

## 平成29年7月九州北部豪雨

豪雨、地形、地質がもたらした土砂崩壊、樹木の流出



2017年7月28日 福岡県糟倉市黒川佐田地区

私たちが、2年前（平成29年）の7月豪雨で直面した災害時の降水量について、地元の人に聞いたところ、農協から借りた雨量計が、1日（24時間）で940mmに達していたと話してくれました。1トンの水が一日に降ったということです。0次谷（ゼロジダニ）の全ての谷、ここは花崗岩が風化した真砂土の地域で、ほとんど全てが表層地滑りを起こしていました。これはもう、広葉樹であろうが、スギ・ヒノキの針葉樹であろうが、何が立っていても地滑りを防げなかった、どうやっても崩れるというところなんです。そういった大きな災害が、私たちの日本を襲っているということです。

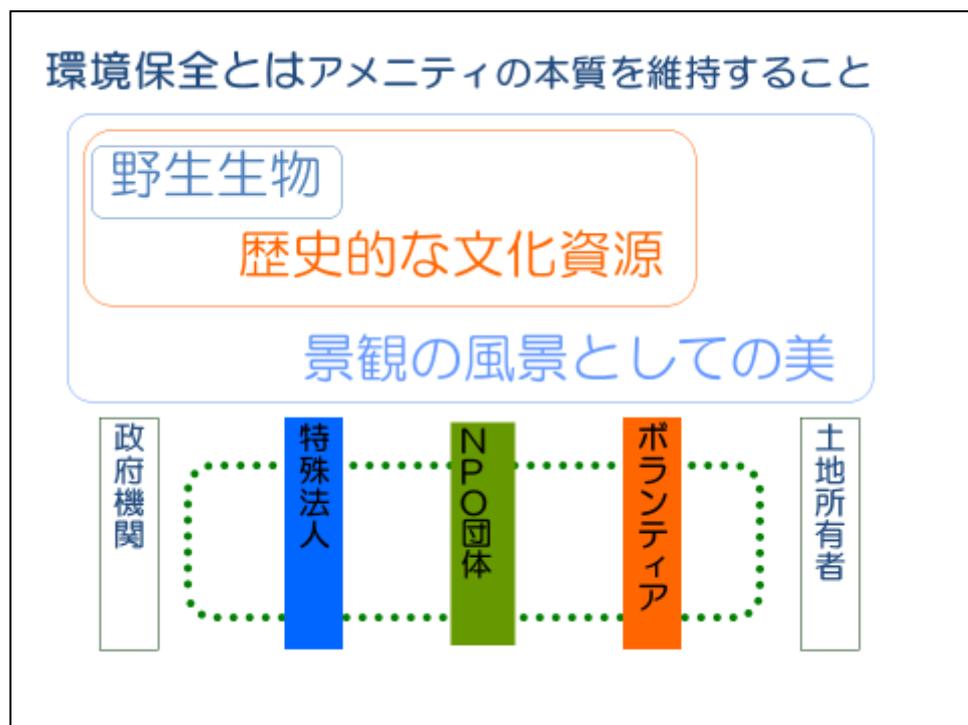
今後、どのような  
地域の生活、  
森づくり、森林景観の  
将来像を描くのか？

こういった状況の中で、今後どのような地域の生活、森づくり、森林景観の将来像を描いていくのか、本当に解があるのか、いま私たちが直面している悩みであると言えます。

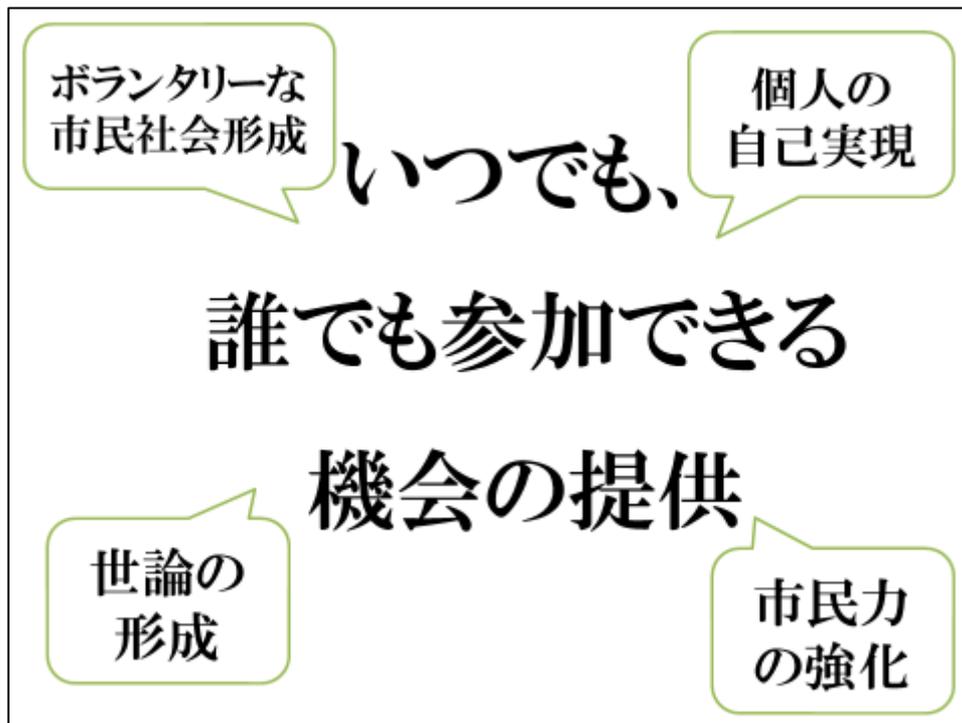
# 緑のボランティア から グリーン・キャリアへ

## 風景づくり 社会の課題解決を通じて

そういった中で、緑のボランティアという言葉からグリーンキャリアという言葉につなげたいのですが、少しイギリスの事例を紹介させていただきます。



イギリスではアメニティの保全を重視しており、野生生物、歴史的な文化資源そして景観の保全の対象となる土地があります。土地の所有者と政府機関の間を、ボランティア、NPO、特殊法人がつなぎ、展開しています。



いつでも誰でも活動に参加できる機会の提供として、国立公園と AONB（特別自然美観地域：Area of Outstanding Natural Beauty）、これは日本でいえば県立自然公園に当たるかもしれませんが、そういう地域指定を行い、こういう景観が美しいだろうといったガイドラインを作りながら、ボランティアや市民が、その景観復旧活動を展開しています。このように、イギリスはパブリックアクセスということで、農山村を市民に開いていますが、日本の農山村というのは閉鎖的で、なかなかアクセスが難しいということが課題ではないかと思えます。





**Grasmere & Whitemoss Common 2004.11.6**

これは湖水地方のグラスミアの写真で、ここには思いでベンチが置かれていて、これを寄付した方の生まれた年と亡くなった年が刻まれています。そこに座ると美しい景観が見られるというように、美しい景観をいかに次世代に継承していくか、またそれをいかにマネジメントしていくか、そういうところをイギリスはたいへん大事にしていると思います。



**人工林のアクティビティ、彫刻の森 (Kings Wood, Kent)**

また、こういうアートの森であるとか、



雑木林管理をすることによって、ブルーベルが、春植物が一面に咲き誇る森づくりであるとか、



### 農地での伝統的生垣の修復 (High Wycome)

また、このような伝統的な生け垣でBTCVのボランティアが農家と協働しています。



テムズ・アンド・チェイス コミュニティー フォレスト

1990年の森林率：8% 2030年の目標：30%

550万本以上の植林を実施予定、2288haの森づくり

これはコミュニティフォレストで、ロンドン近くのゴミの埋立て場を覆土してボランティアで植樹し、農地を林地に転用しています。イギリスはほとんど森がない国なので、森林率30%を目標に取組がされています。

# Green Career とは？

## キャリア

- ・ 経歴。
- ・ 積み重ねた実地の経験。

ここでグリーンキャリア（Green Career）について、少しお話ししたいと思います。

**MOBILIZEGREEN | 2019**  
 Lead Employment and Diversity Training for the Green Economy

HOME + THE EVENT + STUDENTS + EMPLOYERS + SPONSOR + REGISTER/APPLY + DONATE

**EMPOWERING YOUNG ADULTS FOR SOCIAL ACTION: Mobilizing for Environmental Change**

MobilizeGreen Annual Conference & Diversity Career Fair  
 March 28-29, 2019 - Washington, DC

**緑の企業説明会 2日**

会議、ワークショップ形式。新しい技術、社会的公正、そして、売り手市場の就活環境の中で、環境雇用の重要性を伝える。

<http://www.mobilizegreenconference.org/>

グリーンキャリアという言葉で調べると、だいたい緑の企業説明会というものが出てきます。

**1929年 米国：ルーズベルト大統領  
 Civilian Conservation Corps (CCC) 国内青年協力隊制度**

- ニューディール施策の一環
- 1933年～1942に行われた、公共事業による救済プログラム。
- 特に、失業者や結婚していない18～25歳の男子を対象
- 連邦政府や自治体が所有する田舎の自然地の保全と開発を実施

**パブリック・サービスとしての緑の雇用** Wikipedia

アメリカの方とグリーンキャリアについて話をする時出てくるのは、世界大恐慌が起きた1929年、ルーズベルト大統領がニューディール政策をやっているときに、シビリアンコンサーベーションコア (Civilian Conservation Corps) ・国内青年協力隊制度を展開しているという話しです。失業した大量の若者を、アメリカの国立公園づくりに雇用して、これが各州で大変な評判になり、今でも続けられています。パブリックサービスとして緑の雇用を展開しているというものです。

**EarthCorps** LOCAL RESTORATION · GLOBAL LEADERSHIP Seattle, Washington



EarthCorps Field Calendar- September 2011

週4日作業、1日教育日、通勤体制



年間事業費 約2億4千万



自然地保全のコンサルティング



コアメンバー 半年で約40人が、チーム活動



これはシアトルのアースコア (Earth Corps) の事例で、彼ら学生が半年から1年ぐらい、隊員として雇用されて各地の公園、外来種の除去というような取組を展開しているところです。



Seattle, Washington

<教育活動の骨子>

EarthCorpsの特徴は20%の時間を教育に、80%の時間をフィールドワークに割り当てている。テーマは3つ。

- 1. Healthy habitat (健全な生息地の保全)
- 2. Young Leaders (若手リーダーの育成)
- 3. Strong Community (強いコミュニティの形成)

貧しい家庭の優秀な子に学ぶ機会を

入隊にはセレクション月、約10万円支給  
除隊後、奨学金支給

Green Pathを通じ Careerの変更を

主に中・高・大学生対象  
しかし、中には企業の転職組、戦地からの帰還兵も含む

Cascading Leadership 異年齢の共同・人材育成

地域の緑の人材育成の為に隊員を小学校や地域ボランティア活動に派遣、共同作業。

### 教育としてのサービス事業

彼らの人材育成のポイントは、健康、若手リーダーの育成、強いコミュニティの形成、こういったことをキーワードに、教育としての緑のサービス事業を展開しています。

### Grow Good

食料と機会を提供する団体

2011年～The solvation Army's Bell に隣接する1.5エーカーの土地を都市農業として管理運営するためにThe solvation Armyと連携し、生ごみの受け入れ、コンポストづくり、人材育成や野菜の栽培管理を行っている。シェルターにいる500人のホームレスに新鮮な果物と野菜を提供している。

- 1. Fresh farm food
- 2. employment
- 3. Life skills classes
- 4. Culinary training



資料提供：循環生活研究所

他にも、グロウ グッド (Grow Good) という都市農業を展開している事例で、ホームレスの対策であるとか、

週2回、退役軍人の  
PTSDを含む習慣回  
復のためのプログラ  
ム



資料提供：循環生活研究所

退役軍人の PTSD を含めた習慣回復プログラムとか、



移行雇用プログラム(TEP)

GrowGoodの職業訓練プログラ  
ム。

3ヶ月ごとに平均5名の  
シェルター・クライアントを雇用  
さまざまなキャリア・パスに適  
用できる基礎的なスキルを提  
供。

資料提供：循環生活研究所

非雇用者のプログラムを展開しています。

## NYCHA (NYC Housing Authority=ニューヨーク市住宅局) Farm



ブルックリン・レッドフック地区（レッドフック公営住宅・6300人居住）にある、レッドフック公営アパートに隣接したNYCHA所有地にあるコミュニティガーデン、広さは1.1エーカー=1346坪。住民が関わり交流する場として位置づけられている。非営利団体Added Value Farmsがこの地域のパートナー団体として、ファームの運営を協働で担っている。2013年、NYCHA所有地につくられた最初の都市農園。

資料提供：循環生活研究所

これはニューヨーク住宅局の事例で、住民が関わって交流する場（コミュニティ）を提供しています。



### シニアプログラム（公営住宅にするお年寄り向けヨガ教室）

この日、野菜スタンドでは、ファームで取れた野菜をお年寄りに無料で配布していた。基本的に、公営住宅の住民は、ファームでボランティア活動をするか、または生ごみを持参すれば、ファームで収穫した野菜を無料でもらえる。

資料提供：循環生活研究所

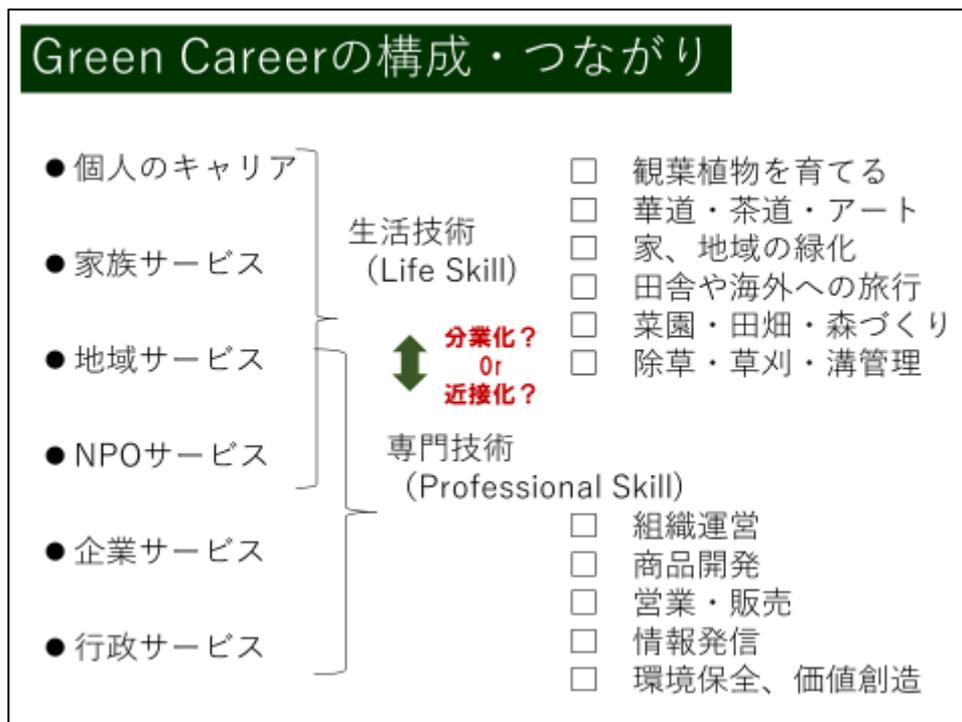
高齢者に野菜を与えたり、緑の活動を通じて見守りを行ったりしています。このように、緑を通じて様々な社会の課題を解決する活動が展開されています。

- みどりのキャリア形成
- 教育としての緑の活動
- 暮らしの糧として



- 価値の創出
- 商品・サービスの開発

グリーンキャリアというのは、みどりのキャリア形成、教育としての緑の活動、暮らしの糧として、今後展開していくことがあり得るのではないかと思います。それは通常の会社でのキャリアとは別に、自分の緑のキャリアを培っていくことも大切でしょうし、自分のキャリアを変えたいという時に、一旦緑のキャリアに入って、それから他の企業に復帰していくなどもアメリカでは非常に重要視されている状況です。



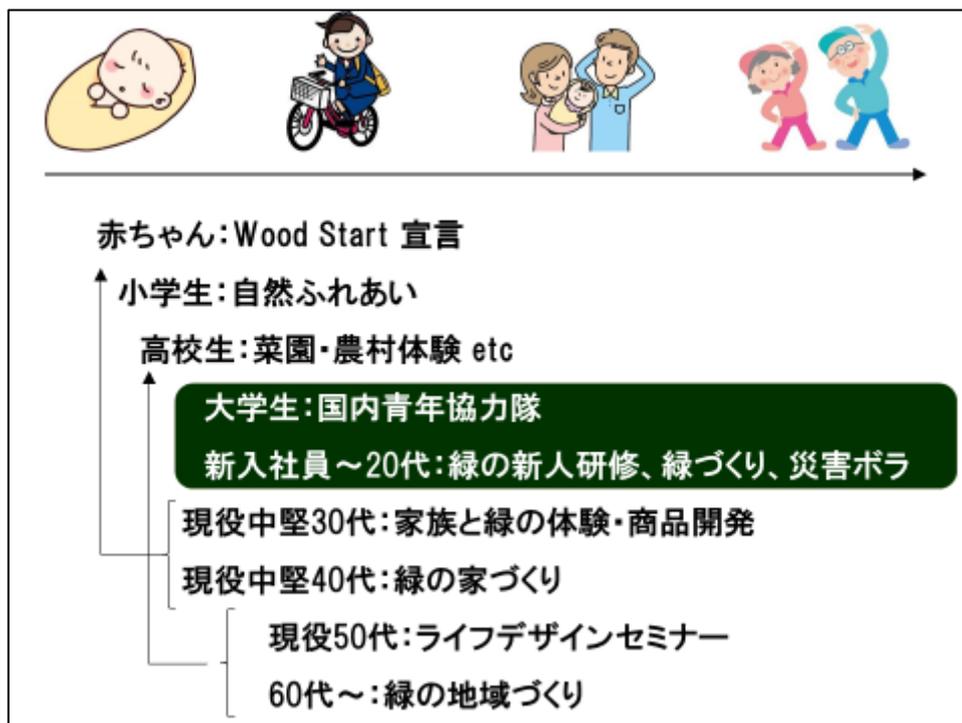
グリーンキャリアの構成を考えてみたところ、個人のキャリア、家族サービス、地域サービス、NPO サービス、企業サービス、行政サービスが、生活技術、専門技術に分かれると思います。

# Green Careerで 開拓する フロンティアは？

私たちがこれから目指すグリーンキャリアのフロンティア、それは何だろうと考えた時、例えば大災害時にライフラインが止まったらどうするか、そういう時に田舎がサポートに入るように、リーダーシップ、チームワークが大切です。

健康診断でメタボと言われたらどうするか、そういう時にも緑の活動は非常に役に立ちます。1人の生活になった時何をするか、うちの学校では引きこもりになる学生も非常に多いのですが、そういうことも緑の活動が救うかもしれないのです。

お金がなくなったらどうするか、山にこもるといふこともあるかもしれませんが、緑の活動がきっとサポートしてくれると思います。そういう健康・福祉を、緑がグリーンキャリアを鍛えることで、どんどんやっていけるのではないかと思います。



赤ちゃんから高齢になるまで、あらゆる世代でグリーンキャリアを展開していく、そういう時代がこれから求められるのではないのかなと思います。

あなたは  
**Green Career**  
 をどう  
 デザインするか？

あなたは、グリーンキャリアをどうデザインするか、とありますが、それが今後の私たちのチャレンジだと思います。

- **仕事のキャリアとは別に、人生を通じた緑のキャリア形成が、平時、また、非常時の備えとして必要**
- **都市も田舎も、風景づくり、社会の課題解決を支える新たな緑のサービス産業の育成を**
- **Green Careerのフロンティアは、大災害、貧困、健康、孤立への備え**

最後に、文字として次の3つを今日のまとめとして書かせていただきました。

1つ目は、仕事のキャリアとは別に、人生を通じた緑のキャリアを形成することが、平時、また、非常時の備えとして重要になるのではないかと。2つ目は、都市も田舎も、風景づくり、社会の課題解決を支える新たな緑のサービス産業の育成が必要になるということ。3つ目は、Green Careerのフロンティアは、大災害、貧困、健康、孤立への備えであるということです。

こういう形で、今まで緑や森林保全に関わっていなかった人たちを、いかに巻き込んでいくのか、そういうことをテーマとしていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。